

倫理学

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
倫理思想概論	倫理学の基礎	2	村山 達也	3	金曜4限
倫理思想概論	ケーススタディで学ぶ倫理学	2	小松原 織香	4	火曜3限
倫理思想基礎講読	デカルトとエリザベトの往復書簡を読む	2	村山 達也	3	水曜2限
倫理思想基礎講読	倫理学研究のレッスン	2	村山 達也	3	水曜3限
倫理思想基礎講読	デカルトとエリザベトの往復書簡を読む	2	村山 達也	4	水曜2限
倫理思想各論	メタ倫理学の基礎	2	村山 達也	6	金曜4限
倫理思想演習	ジェンダーの視点から倫理を議論する	2	小松原 織香	5	火曜4限
倫理思想演習	デカルトとエリザベトの往復書簡を読む	2	村山 達也	5	水曜2限
倫理思想演習	応用倫理学	2	小松原 織香	5	水曜4限
倫理思想演習	論証で辿る西洋倫理学史	2	村山 達也	5	金曜2限
倫理思想演習	ジェンダーの視点から倫理を議論する	2	小松原 織香	6	火曜4限
倫理思想演習	デカルトとエリザベトの往復書簡を読む	2	村山 達也	6	水曜2限
倫理思想演習	応用倫理学	2	小松原 織香	6	水曜4限
倫理思想演習	倫理学の論文を読む	2	村山 達也	6	金曜2限

科目名：倫理思想概論

曜日・講時：金曜 4 限

Semester：3 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB35402, 科目ナンバリング：LHM-PHI207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：倫理学の基礎

2・授業の目的と概要：「何が善いことで、何が悪いことなのか」「善悪など人それぞれではないのか」「そもそもなぜ善いことをしなくてはいけないのか」「幸福とは何か」「道徳と幸福にはどんな関係があるのか」「生きることに何の意味があるのか」……。こうした、人間の生き方の価値をめぐって生じるさまざまな問題について、できるかぎり明確に、理論的に答えようとするのが倫理学です。

この講義を受講することで、現代倫理学の基礎知識や、そこで用いられる（やはり基礎的な）思考法についてひととおり学ぶことができます。ただし「現代」倫理学に特化しますので、倫理学的な側面については必要な範囲で触れるにとどまります。また、理論的な問題に特化しますので、いわゆる応用倫理学の問題については事例として簡単に挙げる程度です（事例としては動物倫理に関連することを多く用います）。

3. 学習の到達目標：(1) 倫理学の基礎知識（基本的な問題と主要な回答、ならびに重要な反論）を身につける。

(2) 倫理学が用いる方法についての基礎知識を身につける。

(3) 倫理的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入：倫理学とは何か（動物倫理学を題材に）

第二回：価値の相対主義：道徳や幸福は人それぞれなのか

第三回：メタ倫理学

第四回：質問にもとづく議論

第五回：善悪の規準は何か：第一の答え

第六回：善悪の規準は何か：第二の答え

第七回：善悪の規準は何か：第三の答え

第八回：質問にもとづく議論

第九回：現代の正義論、ならびに、道徳と宗教の関係

第一〇回：幸福とは何か：道徳と幸福の関係

第十一回：幸福とは何か：現代の福利(Well-Being)論

第十二回：人生に意味はあるか

第十三回：質問にもとづく議論、ならびに試験についての説明

第十四回：全体のまとめ 1

第十五回：全体のまとめ 2

初回の授業では動物倫理の話題（肉食など）を扱います。工場畜産や皮革産業の実情についてお話しする可能性があります。写真などは用いませんが、ショッキングな内容かもしれません。いちおうお知らせしておきます。

理解度を確認し、理解の深化を図るため、毎回アンケートを取り、アンケートでの質問に基づく議論の機会を数回に一度設け、理解の確認と深化を図ります。取り上げるべき質問が多い場合は回答に二回使うこともあるでしょう。それゆえ、そうした回の内容や分量によって、上記の目的の範囲内で、授業計画全体には変更がありえます。以上の予定はあくまで「予定」です。

2024年度の全学・倫理学を受講した方へ：多くの内容は重複しますが、全学・倫理学では触れなかった論点に触れたり、ここでは触れなかった話題を扱ったりもしますので、全学・倫理学を受講された場合でも新しいことをいろいろ学ぶことができます。

5. 成績評価方法：各回のコメント・ペーパー20%、学期末試験 80%。

6. 教科書および参考書：教科書は不要です（必要なものはプリントを配布します）。参考文献は講義内で適宜紹介します。

7. 授業時間外学習：講義内容がやや豊富なので、適宜復習し、参考文献にもあたることを望ましい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

特別な予備知識は不要です。なお、演習や卒論指導にあたっては、本講義に相当する内容が既習であることを前提としますので、倫理学専攻の学生はできるかぎり履修してください。

科目名：倫理思想概論

曜日・講時：火曜3限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB42302, 科目ナンバリング：LHM-PHI207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ケーススタディで学ぶ倫理学

2・授業の目的と概要： 倫理学は「善い人」になるための学問ではありません。人間の行為はどのように正当化されるのかを学び、道徳の多様性を学ぶことが倫理学の目的です。本講義では、現代の人々の倫理観の多様性に触れ、基礎的な倫理思想の理論とその背景を学びます。

世界中に多種多様な倫理思想がありますが、本講義は西洋で多用される理論を中心に紹介します。残念ながら全てを網羅することは難しく、アジア、アフリカ、中東、南米等の倫理観には言及できませんが、倫理思想を研究する足がかりの第一歩として、西洋倫理思想を学んでいきます。

本講義はケーススタディを行います。私はセンシティブなテーマも扱うので、受講する前に必ず内容を確認して、慎重に判断してください。

また、授業では、漫画やアニメ、ドラマ等のフィクションの作品をもとに、倫理的課題について検討します。サブカルチャーの作品を、倫理学の視点から分析的に読み解く課題に挑戦してもらいます。

3. 学習の到達目標：(1) 現代の倫理的課題を発見することができるようになること。

(2) 倫理思想の基礎知識を身につけること。

(3) 倫理問題に対して、各倫理思想に基づいた合理的判断を示すことができること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：倫理学とはなにか（授業ガイダンス）

第二回：「私たちに徴兵を拒否する権利はあるのか？」（権利論）

第三回：「私たちは宗教上の理由による医学治療の拒否を認めるべきか？」（法と道徳）

第四回：質問への回答・ディスカッション・ミニレポート・映像教材視聴

第五回：「国民の大半が豊かになるために、一部の人たちを公害の犠牲にして良いか？」（功利主義）

第六回：「人を殺した友達をかくまうために嘘をついてもよいか？」（義務論）

第七回：「明らかに医学的に間違っている患者の要望を、医者は受け入れるべきか？」（徳倫理学）

第八回：質問への回答・ディスカッション・ミニレポート・映像教材視聴

第九回：「私たちは貧しい家庭で育った子どもに奨学金を出すべきか？」（リベラル平等論）

第十回：「私たちは警察を民営化し、警備会社と契約すべきか？」（リバタリアニズム）

第十一回：質問への回答・ディスカッション・ミニレポート・映像教材視聴

第一二回：「地方の性差別を都会の人間が介入すべきか？」（コミュニタリアニズム）

第十三回：「市民による議論でものごとを決めることは良いことか？」（共和主義）

第十四回：質問への回答、ならびに試験についての説明

第十五回：全体のまとめ

毎授業ごとに、コメントシートを書いてもらいます。

私がみなさんから寄せられた質問や感想に応答します。内容はなんでもかまいませんので、自由に書いてください。

授業の理解度に合わせて講義のスピードを調整します。

柔軟に授業の計画を変更しますので、あくまでも以上は授業の予定です。

5. 成績評価方法：出席・コメントシート等の平常点 30%

学期末試験 70%

6. 教科書および参考書：教科書

教科書はありません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

赤林朗・児玉聡編『入門・倫理学』勁草書房、2018年。

7. 授業時間外学習：授業の予習復習をして、参考書に目を通してください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理思想基礎講読

曜日・講時：水曜 2 限

semester：3 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB33204, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：デカルトとエリザベトの往復書簡を読む

2・授業の目的と概要： デカルトとエリザベトが交わした往復書簡から、心身問題、感情（情念）、幸福、徳などを論じた個所の抜粋を読みます。エリザベトの、ときに鋭く、ときに切迫した問いかけに、デカルトがどう答え（損ね）たか、エリザベトがデカルトをさらにどう追い詰めたのかを検討することをつうじて、近代哲学の根本問題についての理解を深めることを目的とします。

訳読にあたっては、次回に読む箇所の文法事項のヒントや解説をグーグルドキュメントで毎回配布します。また、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。

3. 学習の到達目標：(1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

(2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（デカルトとエリザベトの往復書簡についての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

5. 成績評価方法：出席、担当、参加度により総合的に判断します。

6. 教科書および参考書：必要なものはすべてプリントで配布します。必須ではありませんが、訳本には以下のものがあります。『デカルト＝エリザベト往復書簡』（山田弘明訳、講談社学術文庫）

7. 授業時間外学習：各回とも訳を用意しておいてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理思想基礎講読

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB33305, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：倫理学研究のレッスン

2・授業の目的と概要： この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。教員が選んだテキストをもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。倫理学の村山と哲学の教員一名が、ほぼ半分ずつ担当します。

3. 学習の到達目標：(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。
(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 対面授業のみ

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(1)
3. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(2)
4. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(3)
5. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(4)
6. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(5)
7. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(6)
8. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(7)
9. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(8)
10. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(9)
11. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(10)
12. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(11)
13. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(12)
14. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(13)
15. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(14)

5. 成績評価方法： 報告、討論、コメントによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。

6. 教科書および参考書： 必要なものは配布します。参考書は演習内で指示します。

7. 授業時間外学習： 事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。倫理学専修の2年生はこの水 3 の授業を必ず履修するようにしてください。他の専修の方は事前または初回時に教員とご相談ください。

科目名：倫理思想基礎講読

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB43203, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：デカルトとエリザベトの往復書簡を読む

2・授業の目的と概要： デカルトとエリザベトが交わした往復書簡から、心身問題、感情（情念）、幸福、徳などを論じた個所の抜粋を読みます。エリザベトの、ときに鋭く、ときに切迫した問いかけに、デカルトがどう答え（損ね）たか、エリザベトがデカルトをさらにどう追い詰めたのかを検討することをつうじて、近代哲学の根本問題についての理解を深めることを目的とします。

訳読にあたっては、次回に読む箇所の文法事項のヒントや解説をグーグルドキュメントで毎回配布します。また、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。

3. 学習の到達目標：(1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

(2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（デカルトとエリザベトの往復書簡についての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

5. 成績評価方法：出席、担当、参加度により総合的に判断します。

6. 教科書および参考書：必要なものはすべてプリントで配布します。必須ではありませんが、訳本には以下のものがあります。『デカルト＝エリザベト往復書簡』（山田弘明訳、講談社学術文庫）

7. 授業時間外学習：各回とも訳を用意しておいてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理思想各論

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB65401, 科目ナンバリング：LHM-PHI307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：メタ倫理学の基礎

2・授業の目的と概要：道徳（さらに言えば、価値一般）について、「何が善いことなのか」の他に、「そもそも『何が善いことなのか』という問いに正解はあるのか」、「正解があったとして、それを私たちはどうやって知るのか」、「正解を知ったとして、その正解は人を動かす力をもつのか」といった疑問が浮かぶことがあります。こうした問いを扱うのがメタ倫理学です。この授業では、メタ倫理学の基本的な問題や、その問題についての代表的な考え、さまざまな反論などを学びます。

3. 学習の到達目標：(1) メタ倫理学の基礎知識（基本的な問題と主要な回答、ならびに重要な反論）を身につける。
(2) メタ倫理学が用いる方法についての基礎知識を身につける。
(3) メタ倫理学的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

講義を主とし、毎回アンケートを取ります。アンケートでの質問に基づく議論の機会を数回に一度設け、理解の確認と深化を図ります。

- 第一回：メタ倫理学とは何か：相対主義を題材に
 - 第二回：倫理学の古典におけるメタ倫理学的な議論（プラトン、ヒューム、ムーア）
 - 第三回：質問にもとづく議論
 - 第四回：道徳と認識 1：開かれた問い論法
 - 第五回：道徳と認識 2：情動主義
 - 第六回：道徳と認識 3：指令主義
 - 第七回：質問にもとづく議論
 - 第八回：道徳の存在 1：錯誤主義
 - 第九回：道徳の存在 2：自然主義
 - 第一〇回：道徳の存在 3：その他のさまざまな立場（神命説、準実在論、静寂主義）
 - 第十一回：道徳の理由 1：ホワイ・ビー・モラル？
 - 第十二回：道徳の理由 2：外在主義と内在主義
 - 第十三回：質問にもとづく議論
 - 第十四回：まとめ 1
 - 第十五回：まとめ 2
- 以上は予定であり、変更する可能性があります。詳細は初回授業で説明します。

5. 成績評価方法：アンケート 30%、学期末試験 70%。

6. 教科書および参考書：教科書は不要です（必要なものはプリントを配布します）。参考文献は講義内で適宜紹介します。

7. 授業時間外学習：資料や参考書を用いて、十分な予習復習を行なってください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理思想演習

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB52407, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する

2. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。その後、参加者で議論をします。

3. 学習の到達目標：(1) テキストを要約することができる。
(2) 現実に行き起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入 ・担当箇所の割り振り
第二回：テキストの読解（1）
第三回：テキストの読解（2）（以下同様）

5. 成績評価方法：演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：テキストはプリントで配布します。
現在、予定しているテキストはキャロル・ギリガン『人間の声で：ジェンダー二元論を超えるケアの倫理』川本隆史・山辺恵理子・米典子訳（風行社、2025 年）です。

7. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、レジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理思想演習

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB53206, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：デカルトとエリザベトの往復書簡を読む

2・授業の目的と概要： デカルトとエリザベトが交わした往復書簡から、心身問題、感情（情念）、幸福、徳などを論じた個所の抜粋を読みます。エリザベトの、ときに鋭く、ときに切迫した問いかけに、デカルトがどう答え（損ね）たか、エリザベトがデカルトをさらにどう追い詰めたのかを検討することをつうじて、近代哲学の根本問題についての理解を深めることを目的とします。

訳読にあたっては、次回に読む箇所の文法事項のヒントや解説をグーグルドキュメントで毎回配布します。また、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。

3. 学習の到達目標：(1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

(2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（デカルトとエリザベトの往復書簡についての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

5. 成績評価方法：出席、担当、参加度により総合的に判断します。

6. 教科書および参考書：必要なものはすべてプリントで配布します。必須ではありませんが、訳本には以下のものがあります。『デカルト＝エリザベト往復書簡』（山田弘明訳、講談社学術文庫）

7. 授業時間外学習：各回とも訳を用意しておいてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理思想演習

曜日・講時：水曜 4 限

Semester：5 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB53408, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：応用倫理学

2・授業の目的と概要：この授業は原則として倫理学専修の学生に向けて開講します。他専修で受講を希望される方はご相談ください。

論文を書くためのテーマを選定し、資料を集め、章立てを考えます。また、実際に論文原稿を書き、卒論・修論・投稿論文等を執筆します。

3. 学習の到達目標：(1) 論文の書き方を理解する
(2) 論文を執筆する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入

第二回：テーマの選定(1)

第三回：テーマの選定(2)

第四回：テーマの選定(3)

第五回：資料の選定(1)

第六回：資料の選定(2)

第七回：資料の選定(3)

第八回：資料の読解(1)

第九回：資料の読解(2)

第十回：資料の読解(3)

第十一回：論文の構成(1)

第十二回：論文の構成(2)

第十三回：論文の構成(3)

第十四回：論文発表会(1)

第十五回：論文発表会(2)

5. 成績評価方法：演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：テキストはありません。必要な資料はコピーして配布します。

7. 授業時間外学習：テーマに沿って論文を書く準備をするので、資料を集めたり、読み込んだり、執筆したりする時間が必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

【重要】卒論・修論を応用倫理学で執筆する予定の学生は、出来る限り履修してください

科目名：倫理思想演習

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LB55208, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：論証で辿る西洋倫理学史

2・授業の目的と概要：倫理学の醍醐味の一つは、道徳や幸福についてたんに意見を言うことではなく、そうした意見を根拠とともに主張したり、その根拠を吟味したりすることにあります。偉大な倫理学者たちが偉大なのにはさまざまな理由がありますが、その一つは、その人たちがしっかりした議論を作り、常識的な前提から、否定しがたいステップで、とてつもない帰結を引き出したりしたことに求めることができるでしょう。この演習では、プラトン以来の西洋倫理学史を、倫理学者たちのテキストから議論を再構成することを通じて学びます。

最初の数回で論証の再構成の仕方を学び、あとはひたすら倫理学者たちのテキストから論証を再構成していきます。たびたび課題を出しますので、演習の前に提出し、演習で素材として提示してください。それをもとに、みなで論証を検討していきます。

(昨年度の参加者へのメッセージ：昨年度と基本テーマは同じですが、扱うテキストは異なります。テキストごとにさまざまな面白さがありますし、また、こうした再構成は、私もいまだに行なうような基礎練習です。再履修は歓迎ですし、みなさんにとっても有益だと思います。)

3. 学習の到達目標：西洋倫理学史について一定の知識を身につける。

論証の再構成ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

(演習ですので、以下はあくまで予定であり、大いに変更の余地があります。)

第一回：ガイダンス

第二回：論証の再構成のやり方 (テキスト：野矢茂樹『新版 論理トレーニング』第四章)

第三回：論証の再構成のやり方 (グーグルドキュメント上でダイアグラムを作る)

第四回：古代1：プラトン

第五回：古代2：アリストテレス

第六回：古代3：ストア派

第七回：中世：トマス・アキナス

第八回：近世1：デカルト

第九回：近世2：スピノザ

第一〇回：近代1：パスカル

第十一回：近代2：カント

第十二回：近代3：ミル

第十三回：現代1：シンガー

第十四回：現代2：ネーゲル

第十五回：まとめ

5. 成績評価方法：課題の提出 70%、演習内のパフォーマンス 30%。

6. 教科書および参考書：必要なものはすべてこちらで用意します。

7. 授業時間外学習：たびたび課題を出しますので、演習前に提出してください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

論証の再構成や論理学を学んだことのない学生向けの注意：最低限の知識は演習内で説明しますが、論証の再構成や論理学について自習したり読書会をしたりすることは演習を受ける上で非常に有益です。教科書としては野矢茂樹『新版 論理トレーニング』(産業図書)やノルト、ロハティ『マグロウヒル大学演習 現代論理学 (I)』(オーム社)をお勧めします。

論証の再構成や論理学を学んだことのある学生向けの注意：この演習での第一の目標は、古典的なテキストから前提/帰結関係を大づかみに取り出すです。そのため、議論の妥当性をチェックした

科目名：倫理思想演習

曜日・講時：火曜 4 限

semester：6 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB62402, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する

2. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。その後、参加者で議論をします。

3. 学習の到達目標：(1) テキストを要約することができる。
(2) 現実に行き起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入 ・担当箇所の割り振り
第二回：テキストの読解（1）
第三回：テキストの読解（2）（以下同様）

5. 成績評価方法：演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：テキストはプリントで配布します。
現在、予定しているテキストはメリッサ・M・シュー・キンバリー・K・ガーチャー編『女の子のための西洋哲学入門』三木那由他・西條玲奈監訳（フィルムアート社、2024年）です。

7. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、レジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理思想演習

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：村山 達也

コード：LB63201, **科目ナンバリング：**LHM-PHI315J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：デカルトとエリザベトの往復書簡を読む

2・授業の目的と概要： デカルトとエリザベトが交わした往復書簡から、心身問題、感情（情念）、幸福、徳などを論じた個所の抜粋を読みます。エリザベトの、ときに鋭く、ときに切迫した問いかけに、デカルトがどう答え（損ね）たか、エリザベトがデカルトをさらにどう追い詰めたのかを検討することをつうじて、近代哲学の根本問題についての理解を深めることを目的とします。

訳読にあたっては、次回に読む箇所の文法事項のヒントや解説をグーグルドキュメントで毎回配布します。また、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。

3. 学習の到達目標：(1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

(2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（デカルトとエリザベトの往復書簡についての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

5. 成績評価方法：出席、担当、参加度により総合的に判断します。

6. 教科書および参考書：必要なものはすべてプリントで配布します。必須ではありませんが、訳本には以下のものがあります。『デカルト＝エリザベト往復書簡』（山田弘明訳、講談社学術文庫）

7. 授業時間外学習：各回とも訳を用意しておいてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理思想演習

曜日・講時：水曜 4 限

Semester：6 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LB63401, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：応用倫理学

2・授業の目的と概要：この授業は原則として倫理学専修の学生に向けて開講します。他専修で受講を希望される方はご相談ください。

論文を書くためのテーマを選定し、資料を集め、章立てを考えます。また、実際に論文原稿を書き、卒論・修論・投稿論文等を執筆します。

3. 学習の到達目標：(1) 論文の書き方を理解する
(2) 論文を執筆する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入

第二回：テーマの選定(1)

第三回：テーマの選定(2)

第四回：テーマの選定(3)

第五回：資料の選定(1)

第六回：資料の選定(2)

第七回：資料の選定(3)

第八回：資料の読解(1)

第九回：資料の読解(2)

第十回：資料の読解(3)

第十一回：論文の構成(1)

第十二回：論文の構成(2)

第十三回：論文の構成(3)

第十四回：論文発表会(1)

第十五回：論文発表会(2)

5. 成績評価方法：演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：テキストはありません。必要な資料はコピーして配布します。

7. 授業時間外学習：テーマに沿って論文を書く準備をするので、資料を集めたり、読み込んだり、執筆したりする時間が必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

【重要】卒論・修論を応用倫理学で執筆する予定の学生は、出来る限り履修してください

科目名：倫理思想演習

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：村山 達也

コード：LB65201, **科目ナンバリング：**LHM-PHI315J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：倫理学の論文を読む

2・授業の目的と概要： 自分で論文を書く上では、入門書も一冊の本も、お手本としてはあまり参考になりません。入門書は既に得られている成果の解説なので論文とは異なり、一冊の本は長すぎるからです。論文を書く参考になるのは、やはり論文です。そこでこの演習では、規範倫理学、メタ倫理学、福利論など、倫理学のさまざまな分野の論文（古典的なものから、現代の日本で書かれたものまで）を一週に一本読み、みなで議論しながら、問題設定、構成、論証、意義……などを分析していきます。一週に一本なので完全に理解することは難しいですが、「哲学倫理学の（よい／悪い）論文とはどういうものか」を学ぶことができるでしょう。

最初の数本は私が選び（トマス・ネーゲル、スーザン・ウルフ、クリスティン・コースガード、サリー・ハスランガーあたりが候補です）、少なくとも一本は私が分析して見本とします。それ以降は担当者各自に選んでもらうことになります（私のほうから、おすすめの論集をいくつか紹介したりもします）が、難しすぎたり論争的すぎたり、場の安全性を乱しかねないと思われる場合は変えていただく場合もあります。

論文はすべて日本語で読みます。応用倫理学の分野のものは基本的には扱いません。

3. 学習の到達目標：(1) 哲学倫理学における論文とはいかなるものであり、どのような規準によって評価されるのかを学ぶ。
(2) そうした規準を用いて自分でも論文を分析できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) ガイダンス
- (2) 論文分析の例、その 1
- (3) 論文分析の例、その 1
- (4) --(14) 参加者による論文分析と議論
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：担当 6 割、授業内パフォーマンス 4 割

6. 教科書および参考書：必要なものはすべてクラスルームで配布します。

7. 授業時間外学習：課題論文をよく読み、担当者ではないときも分析を試みてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：